

あなたも読みください  
真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗

日刊 1カ月 3400円  
日曜版1カ月 800円

# 手良民報

気軽にお気相談は活  
電話78-0943  
毎月赤旗読者に配達  
民報のみは月100円)  
発行  
日本共産党・手良支部

## 手良チーム総合で2位

### イーナちゃん駅伝カーニバル

第31回の「イーナちゃん駅伝カーニバル2013」が10月14日に市陸上競技場で、地区の部では10チーム、地区子ども部では15チームが参加して行われました。

手良チームは計6回の全体練習を経て大会に挑み、地区の部では第3位、子供の部では第4位となり総合では第2位でした。

監督は手良公民館厚生部長の浦野健一さん。園児から小学生までの5人で編成する「地区子ども部」(2・7



手良チーム選手

総合の部で1位の西春近チームには県下縦断駅伝の選手がおり、総合的な実力では手良も遜色がないのではないかといい声もありました。

手良チームは今年、グリーンのユニフォームと旗を新調してのぞみました。

笑里、那須野亨のみなさん。雲ひとつなく風もなく暑い日でした。選手は闘志を秘めていつせいにスタートしました。

手良チームは「子供の部」は最初の頃は1、2位を走った。材センターに頼むと、1時間で1200円から1500円かかります。市の担当者は「あとは近所で助け合ってやっていただくしか」とのこと。

## 介護が必要になったら雪かきごみ出しは？

先日こんな相談がありました。夫婦ともに要支援2という家庭で、軽作業援助サービスの申請をしたら、「住民税課税世帯なので対象にならず使えません」と言われたそうです。

この軽作業援助サービスは、介護認定などを受けている方に対して、雪かきなどを1回100円で頼むことができる制度です。ごみ出しは1回五十円です。家の前の雪かきやごみ出しは介護保険制度では、ヘルパーさんに頼むことはできません。ただ、伊那市のこの制度は、住民税非課税世帯が対象となっています。

自費で雪かきをシルバー人

## 保育園も図書館も民間委託を検討中！

伊那市の子ども・子育て審議会では保育園の民営化についてのガイドライン(案)の審議が行われる予定です。

このガイドラインの中身は市立保育園を民営化する時にはどういう手続きで行うかと

ていましてが3位になりました。「地区の部」は5、6位から3位になりました。

## 3回目の「てらコン」活性化企画委員会が計画

いなかで開くお見合い合コン「てらコン」の3回目は地元皆さんの協賛もあつて9月29日にお昼をはさんで約6時間手良小学校体育館で行われました。

この集いは手良地区を元気にしよう、活性化しようということ、新しい出逢いの場、パートナー探しのお手伝いを手良地区活性化促進会議の企画委員会が計画したものです。

参加者ははじめての人が多い、38歳

から52歳までの男性18名、女性7名でした。

体育館の壁には「てらコンプロフィール」として各人の名前、ニックネーム、年齢、仕事、趣味(特技)、好きなもの(こと)、アビリティポイント、メッセージなどが掲示され紹介されていました。

参加者はお互いに自己紹介をし、ゲームやフリートークで自由に活発に交流を深めました。お昼は公民館でとり、また体育館に戻ってマツチングカードによる気になった人の告白タイムもあり、3組がカップルとして成立しました。

## 弥生時代後期の集落が宮の平遺跡発掘調査

県道美篤箕輪線中坪地籍の道路改良工事に伴い中坪公民館北側の「宮の平遺跡」を伊那市教育委員会が平成20年度から平成22年度の3ケ年にわたり発掘調査を行いその報告が出されました。

今回の調査では、弥生時代の竪穴住居6軒、平安時代の竪穴住居7軒、時期不明の竪穴住居1軒、溝状遺構2基、円形遺構1基が検出されました。

この成果から、宮の平遺跡には弥生時代後期の集落が形成されていたと考えられ、水田の用水になりうる棚田川があることから、近辺に水田跡が存在する可能性が高く、また、本遺跡で平安時代の集落が確認できたことから、古代の三良(てら)郷に関した遺構や遺物がこの周辺から検出されると考えられると報告しています。



に上下水道の検針や窓口業務・市営住宅の管理が民間委託となりました。これをさらに、保育園や図書館・博物館・美術館と広げて行ってよいのでしょうか。

今、JR北海道では、民営化以後のさまざまな鉄道運営が大きな問題となっています。国もそのさまざまな管理をチェックできませんでした。

このような重大なことを市民には知らせずに検討しているのはおかしいと思います。

来年4月の市長選挙・市議会議員選挙の大きな争点になると思います。

みなさんのご意見をお聞かせください。

十月十五日  
市議会議員 柳川広美

太平洋戦争中、手良のお寺に疎開していた元世田谷区中里小学校の疎開児童との交流会が先日あった。幼い子ども達が親元を離れて半年間淋しい思いをしたであろう。また当時は食糧不足で、ひもじい思いもしたであろう。蚤や虱にも悩まされたことであろう。疎開児童の話聞いていて感謝の気持ちやお礼の言葉はあつたが、恨みを感じなかったのはうれしい驚きである。過去のことには甘味な思い出になりやすいがそればかりではないよつたお寺の和尚さんから教えてもらったのが「般若心経」を覚えていたよつたし、信濃の国」の歌は今も当時の疎開児童が集まる会には歌っているらしい。参加した疎開児童の一人からは、手良の人達の優しさを感じたことが度々あつたらしく、「この地を放浪した井上井月がもてなされたことに重なるものがある」と言ってくれた。嬉しくありがたいことである。疎開児童が東京に帰るお別れの時には、お世話になった村の人達を招いて疎開児童が学芸会を開き、体育館はいっぱいになり、児童たちの歌、踊り、演劇をみんで楽しんだようである。厳しい時代であったが疎開児童と村の人達との関係は温かいものがあつたようである。嬉しいともあれ、戦争のさなきさい臭いを感じる頃、疎開などの状況になるのは絶対にあつてはならないことである。



### 68年ぶりに手良へ 疎開児童との交流会

太平洋戦争末期なるく、アメリカ軍による大都市への空襲が激しくなり、政府は1944(昭和19)年に「学童疎開促進法」を閣議決定し、大都市の子どもたちを農村部へ移す計画を進めました。

「手良誌」によると手良にも終戦前夜の1945(昭和20)年5月から11月までの半年間、東京市世田谷区の中里小学校の児童43名が野口の常光寺と無量寺に別れて疎開しました。その他に縁故疎開も38人ありました。

手良の歴史をまとめた「手良誌」の編集・刊行委員が中心となり9月に「手良郷土研究会」が発足しましたが、その会が「手良誌」刊行の記念事業として「元世田谷区中里小学校疎開児童との交流会」を計画しまし

た。呼びかけに応じて10月16日、元世田谷区中里小学校疎開児童男性5名、女性3名が十人乗りのワゴン車一台で68年ぶりに手良へやって来ました。手良側からは当時の児童、寮母(登内皆与・酒井友子さん)、郷土研究会会員、公民館長など14名が参加しました。

野口公民館で歓迎会食会を行いその後常光寺、無量寺、八幡様、小学校などを見学し、夜は羽田荘で交流会を行いました。歓迎会食会では山岸久男さんが「手良の空気を吸って幼い頃の思い出を呼び起こして」とはじめの言葉があり、北原明会長よりは「疎開という言葉も兵力を温存するための軍用語であり子どもたちの世界にも入り込んでいた。疎開には悲劇もあった。一度とふたたび悲劇を味わわせるようなことがあってはいけない」と歓迎の言葉がありました。中里小学校学生代表よりは

ながら母親の夜業のかたわらで良くボソボソと戦争の話をしてきた。今になって思い出すとあやっばりそうだったのかと古びた日記を食い入るように読み始めた。

父は負傷して病院生活を送りながら書き始めているので、本当の気持ちには程遠いかもれない。常に誰かに気を使いなから不安の中で書き綴った事と思う。

負傷した戦友と淋しさを紛らすために楽しく語り、たまには冗談をいいながら、香気なふりをして苦しい心を紛らせてゆくのが一つの法だったと書いていく。



疎開児童との交流会

### 介護施設の見学 ハツ手高齢者クラブ

ハツ手高齢者クラブは9月26日に20名が参加してマイクロボスで介護施設の見学を行いました。最初に上伊那医療生協の東春近にある「グループホーム(認知症対応型共同生活介護)」と小規模多機能型居宅介護を行っていた。なないうるの家」を見学しました。次に西箕輪にある上伊那福祉協会の特別養護老人ホーム「みさやま」を見て、上伊那医療生協の老人介護施設「はびろの里」で昼食になりました。

### 秋祭りに向けて俳句 募集 井上井月を偲ぶ句会

手良公民館と井上井月を偲ぶ句会は「秋祭り」に向けて俳句を募集し手良全域より21人から35句が集まりました。男性10名、女性11名でした。提出した俳句は、5・6日、中坪の秋祭りの八幡社の境内に大きな箱灯籠へ掲示しました。5日の夜は灯りを点けて祭の雰囲気を感じ上げました。

### 古希を祝って文集完成

昭和32年の手良中学校卒業生が文集を作った。古希の同級会の折、文集作りの提案があり、賛否両論侃侃諤諤(かんかんがくがく)の中半数以上の人から原稿が集まりこのほど完成、会員全員に配られた。卒業以来五十有余年を経て、百人近くいた級友も二十数名が鬼籍に入り、恩師も二人だけとなったが、今回の文集にはその恩師からの原稿も寄せられている。

### 保育園の祖父母参観に出席して

10月25日(金)の午前中、手良保育園の祖父母参観がありました。庭でのミニ運動会がメインでした。学年毎の「祖父母と一緒にゲーム遊び」は学年に応じた内容で祖父母も真剣になつて孫と共に「いすとりゲーム」「進化ゲーム」に取り組んでいました。その他「かけっこ」「ふれあいあそび」「もったいないばあさん音頭」等バラエティに富んでいて、祖父母も孫たちも一生懸命に、また楽しみながら取り組みました。保育園の様子や友達関係など普段見られない孫の生活ぶりもかい見えてとても有意義な参観日だったと思います。(き)

### 生活雑記 115

### 父の残した日記帳の中から

古びた日記帳、長い時間が流れた証拠の薄れかけた文字、明治生まれの父親は変体仮名が多くて読むのに苦労しながら秋の夜長をゆっくりにゆっくりに細解いてゆっくりに思っています。

小松利江

子どもの頃、良く母親に戦地の話を聞いて聞かせていたことを思い出します。父親の膝の中には何時も子どもが眠っていて、本を片手にし

素晴らしい機会をありがたう感謝の言葉があり、疎開中も厳しい時代に受け入れて面倒見てくれたと御礼の言葉が述べられました。懇談の中では「お寺で般若心経などを覚え、『信濃の国』は今でも歌っている」「ひもじくて何でも食べ絵の具では黄色が一番旨かった」などと松根油取りや桑の実、諸干しの思い出話に花を咲かせました。翌日は井月の墓、高遠郷土館などを見学し七面亭で蕎麦を食べて帰京の途につきました。



### 盛大に中坪演芸大会

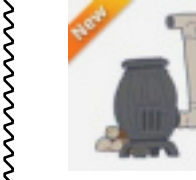
第13回中坪演芸大会は宵祭りの夜中坪公民館で行われました。子どもからお年寄りまで大勢の参加で賑やかに行われました。演芸はちんどん屋の「東京音頭」で賑やかに幕を開き、琴、



小学生のダンス

### 俳句 日だまり

雪どけの野の虫く陽があたる  
味噌炊きの匂いのそばに人が寄る  
室(むろ)を開け野菜の芽など露はれり  
日だまりの世間話に元気で  
雑草の中のはおすき色に出る



### 古希文集

昭和32年の手良中学校卒業生が文集を作った。古希の同級会の折、文集作りの提案があり、賛否両論侃侃諤諤(かんかんがくがく)の中半数以上の人から原稿が集まりこのほど完成、会員全員に配られた。卒業以来五十有余年を経て、百人近くいた級友も二十数名が鬼籍に入り、恩師も二人だけとなったが、今回の文集にはその恩師からの原稿も寄せられている。



祖父母参観

身近な出来事を、早く皆さんにお伝えしたいと思えます。何かありましたら左記まで連絡をお願いします。  
七八〇九四三 高橋

中坪公民館で絵手紙教室やっています



小松栄子

連絡先 高橋  
七八〇九四